

創造・誇り・愛！ 輝く七中 煌めけ生徒！！

立川市立立川第七中学校

校長 渡辺 政彦

学校だより

第3号

令和2年6月8日



# とらのき

〒190-0034 東京都立川市西砂町 6-28-3

TEL (042) 531-0511~3 FAX (042) 531-6103 URL <http://www.tachikawa.ed.jp/jh07/>

## 離任された教職員からのメッセージ

校長 渡辺 政彦

6月に入り、緊急事態宣言が解除され、先週から学校が再開いたしました。今週一杯は三密を避けるために分散登校となり、通常の授業は来週からとなります。これまでの休業期間中はステイホームということでご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。しかし、新型コロナウイルス感染については第2波、第3波の恐れもありますので、学校においても「新しい生活様式」をもとに、感染予防の対策を行っていききたいと思います。

さて、学校は再開いたしました。年度当初に行われる行事もいくつか中止とさせていただきました。離任式もそのひとつで、本来ならば、本校で深い愛情をもって教育活動にあたった教職員と生徒たちのお別れの儀式を設けたかったのですが、実施ができませんでしたので、転出した教職員から生徒たちへのメッセージを紹介いたします。

### 離任の挨拶

立川第七中学校の生徒の皆さんこんにちは。6月に入って新年度がようやく始まりました。まず、離任式で皆さんにお会いできず、成長した皆さんの姿を見たり、合唱を聞いたりすることができずとても残念です。

2月の下旬の新型コロナウイルスの感染防止対策により、学校は一斉に休業に入りました。このような状況で、3年生の卒業式は何とか実施することができましたが、修了式では皆さんの顔を見て、1年間の成長を確認しながら修了証をお渡しできなかったことが心残りでした。

また、生徒の皆さんがいない学校で41年間の教員生活を終えたことは、とても寂しいとともに、教師は生徒の皆さんがいての仕事だと改めて実感しました。

さて、私が5年間の在職中に生徒の皆さんから多くのことを学びました。その一つが、挨拶です。立川七中は、校内で会うと必ず挨拶を交わせる学校でした。また、登下校時に校外で会っても、「おはようございます。」「さようなら。」「お疲れ様でした。」と挨拶をしてくれる生徒が多く、この一言から、いつも働く意欲やパワーをもらっていました。七中の特色である「挨拶」は、生徒の皆さんの素直さ、優しさ、そして、温かく他の人と関わろうとする気持ちからくるものだと思います。このような、心（ハート）がある生徒のいる七中だから、感動する合唱や、全力で取り組む学校行事、生徒会や学年・学級の話し合い活動等ができるのだと思います。ぜひ、これからも七中の良き校風や伝統を引き継ぎ、さらに発展させてください。

私は現在、東京都の教職員研修センターで若手の先生方の授業力向上のために仕事をしています。本来なら、小・中学校で授業を見たり、先生方と議論したりする仕事ですが、学校が再開されるまでは限られた仕事をしています。一日も早く、学校の教育活動が正常に行われ、生徒の皆さんの学習に取り組む真剣な顔、友達と楽しく過ごす笑顔、そして部活動で懸命に活動する姿を見られることを楽しみにしています。

これからは、予想ができないほど変化が激しい時代になると言われています。今回の新型コロナウイルス感染でも、今までに経験のない対応や生活を迫られました。ぜひ、この貴重な知識や経験をこれからの生活にいかして、充実した実りある中学校生活を過ごしてください。結びに、いつも温かく学校を支えてくださった保護者の皆様、西砂川地域の皆様に心より感謝申し上げます。また、最後に努めた学校が立川第七中学校であったことに、感謝と誇りをもって挨拶といたします。ありがとうございました。

令和2年6月1日 大神田 佳明

(前本校校長)

## 離任された教職員からのメッセージ

### ○中本 由貴 先生より

立川七中では、産育休含め 10 年以上お世話になりました。温かく接してくれた生徒の皆さん、支えてくださった保護者や地域の方々や、教職員の皆様に、改めて感謝申し上げます。長い間、どうもありがとうございました。現在は七中近くの昭島市立多摩辺中学校に勤務しております。通勤路が今までと途中まで同じなのですが、その度に、七中生の元気な挨拶や、西砂の風景が懐かしくなり、戻ってしまいたくなる自分がいます。またどこかでお会いできるのを楽しみに、皆様の今後のご活躍をお祈りしております。

### ○石月 勇治 先生より

立川七中で印象的だったことは、挨拶、部活動と授業だ。挨拶は、中学生になるとなかなかできるものではないが七中生は違う。それが、学校生活への積極的な気持ちをつくっていると日々感じた。また、部活動では、朝礼での表彰がとにかく多く、顧問の先生方の部活への熱心さを時々見る機会があったが、驚きさえ感じることも多かった。そして、授業ではよく話を聞き取り組んでいた。毎回授業に行くのが楽しかったというのが正直な気持ちだ。七中のよい所をさらに伸ばし、充実した中学校生活を送れるよう頑張ってください。

### ○西後 知春 先生より

こんにちは。西後です。いろいろお世話になりました。3月末で退職し、現在は映画専攻の大学院に通って編集についての勉強をしています。大学院の学生は半分以上が外国人です。全て英語で授業を行うこともあります。そこで必要になってくるのは、英語力です。どれだけ話せるかによって分かり合えるかどうかが決まってきます。使われているのは中学生でもわかる単語ばかりです。きちんとお話についていけるように英語の勉強をしておくことをお勧めします。ではまたいつか会いましょう。

### ○深水 敬樹 先生より

3年前の春、初めて立川第七中学校に赴任してきたとき、40代で教員経験ゼロの私は、期待とともに不安もたくさんありました。七中生のみんなは、不安な私を明るさと優しさで暖かく迎えてくれました。今まで3年間、卒業生を含む生徒たちと苦楽を共にするなかで、私は教職についてたくさん学ぶことができました。本当にお世話になりました、ありがとうございました。いつまでも、当たり前前を当たり前前にできる七中生でいてください。新しい環境で自分の居場所を見つけることができるよう、これからもお互いに全力で頑張りましょう。

### ○高橋 美晴 先生より

立川七中生のよいところ。それは、毎日気持ちのよい挨拶をしてくれることです。一日に十回も挨拶をしてくれる人もいました。挨拶は何度されても気持ちのよいものです。特に、七中生の気持ちのこもった挨拶は、私に元気を与えてくれました。授業では、素直で一生懸命な皆さんの姿勢に何度も助けられながら、私自身とても楽しく英語の授業をすることができました。素直で明るく、人懐っこい七中生の皆さんに出会えて、一年間、本当に幸せでした。これからも、皆さんの更なる活躍を応援しています。

### ○椎名 裕 用務員より

毎日楽しく新鮮で感動の連続の5年間でした。この間、大変お世話になりありがとうございました。七中の誇りは何といっても全員が元気に挨拶できることだと思います。この良き伝統をぜひ継承していきましょう。今はコロナウイルスの影響で勉強は勿論、部活や様々な行事等を思い描いていた中学校生活が出来ずに残念な気持ちでいっぱいだと思います。でも、この苦難にも前向きにとらえれば将来きっと役に立つ時が来るはず。「負けないでもう少し、最後まで走り抜けて！」頑張れ七中生。お世話になりました皆様に重ねて御礼申し上げます。

**学校再開にあたり** 午前、午後の分散登校という形ではありますが待ちに待った学校生活が再開されました。静かな学校に、生徒たちの活気ある声が響くようになり、とてもうれしく思います。

1年生にとっては、中学校生活の本格的なはじまりです。わからないことが多いとは思いますが、先生方に遠慮なく質問したり教えてもらったりして少しずつ慣れていきましょう。あと1週間、1日3時間の授業が続きます。2・3年生も、体や心のリズム等を学校モードに戻していきましょう。困りごと、悩み事は、一人で抱え込むのではなくまずは相談しましょう。

一方、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための行動も大切です。マスク着用や手洗い、うがい、咳エチケット、ソーシャルディスタンス、換気など、目に見えないウイルスに対して、今、日本全体で一丸となって取り組んでいます。一人一人の行動が、やがては平穏無事な日常生活に繋がっていくのです。まずは友達や身近な人の気持ちを考えた温かい行動から始めていきましょう。

